**三上　斎太郎 （みかみ・さいたろう）**

**１、プロフィール**

超現実派詩人として、昭和初年代に創作活動をする。詩誌「信号燈」・「北」（１・２次）、「座標」、「東奥日報」などに詩、詩評を発表、県詩壇の有力詩人として活躍した。

＜生没＞

1909（明治42）年９月７日 ～ 1983（昭和58）年11月９日

＜代表作＞

『三上斎太郎詩集』

＜青森との関わり＞

弘前市に生まれる。青森師範学校卒。小学校教員となる。戦後労農運動に従事した。弘前市に在住し、死去。

**２、作家解説**

詩人。明治42年石川町（現弘前市）に生まれる。昭和２年東奥義塾卒業。この年、同人誌「わらはど」に参加する。翌３年県立青森師範学校本科二部卒業。小学校教員になる。12月工藤正一と詩誌「信号燈」創刊、超現実主義の詩を発表。翌４年９月、「信号燈」を改題して「表情の骨灰」を創刊。県下総合文芸雑誌「座標」に参加のため、廃刊する。翌５年、詩・詩評を「座標」に発表。翌６年１月、「座標」の左傾化に反発して、一戸謙三・藤田金一らと脱退する。３月詩誌「北」（第一次）に参加。「北」・詩誌「空間」などに詩を発表。翌７年、生活綴方教育活動を始める。翌８年「北」（第二次）に参加、詩を発表。「北」終刊後、12月創刊の詩誌「府」の同人となる。以後、詩作から離れていく。昭和16年、治安維持法違反容疑（生活綴方事件）で６ヶ月拘禁され、敗戦まで保護観察に付される。昭和21年、日本共産党に入党。その後、労農運動に従事する。昭和31年頃から「弘前文学」に加わり、評論活動を始める。昭和36年８月、『三上斎太郎詩集』を刊行。昭和58年11月９日、弘前市において74歳で死去。昭和初年代、超現実主義派の有力な詩人として、県詩壇において活躍した。

**３、資料紹介**

〇『三上斎太郎詩集』

図書

1963（昭和38）年８月１日

150mm×180mm

詩集。昭和38年８月１日発行。発行所弘前文学会。内容は序文「戦前のこと」一戸謙三、昭和５年から同７年までの詩17篇を収録。本集の詩は超現実主義の色濃い影響のもとに、詩作されている。